

# 中 國 本 の 防 衛 機 密 侵 攻

## 米紙報道 20年に探知、米敵生口

米艦のハーバー・ホストは7日、日本の政府機密を扱うオフィサーの手で、米国軍のヘリコpterが侵入し、「深く、持続的にアクセスをしていた」と報じた。米政府が把握し、高官が訪日して日本政府に警告したことから、LJの報道に対し日本政府は「サバード攻撃で防衛省が保有する秘密情報が漏洩したとの事実は確認されてござりません」と説明し、詳備な辯護を行った。

日本は評価避ける

同紙は複数の元米政府高官の証言を元に報じた。報道によると、1972年秋、米国家安全保障局(NSA)が、中國軍による日本の防衛機密文書を複数回入手し、防衛相と協議し、「日本の近代史で最もヤバい大統領補佐官」として知られるボットティンジャーの手で、トドワーケーへの侵入を検査した。

日本側は「不意を突かれた」状態で、情報は防衛相から首相にも報告されたことになったところ。  
元米軍高官は、中國のハッキンクについて同紙に「衝撃的なほどひどいものだった」と語る。その後、日本もサイバーセキュリティの強化を図ったが、米側は中国の攻撃を防ぐには対策が不十分とみて、オーストリアの米国防長官が日本側に「日本のネットワークの安全性が強化されなければ、新たな被害を受けるハズだ」と警告した。日本側は「不意を突かれた」状態で、情報は防衛相から首相にも報告されたことになったところ。  
田崎：防衛相は、日本の記者会見で、秘密情報の漏洩を確認していないとして、「個別具体的な」とつづり、「個別具体的な」とぞ聞いかずむじとぞより、対応能力などが明らかとなる」とし、「いつ、具体的な説明を避けた。首相官邸関係者は、「セイバー攻撃を受けた情報漏洩した事実はない」と報道内容を否定した。

本のサイバー能力に関するもの。米側の視線がよく表れている。日本のサイバー防衛力強化をめぐる課題は山積しているが、とりわけ「一つの側面を改めて意識すべきだ」といふ。

一つは日本のサイバー能力の強化のあり方だ。日本の能力の低さに米は不満を持ち、「マイナーリーグだ」(すこい)、「アメ・フレア元気だ」といふ諧謔的感覚をもつて、日本は国家安全保障戦略改定で「対応能力を欧米主要国並み」と回答したことである。

は、個別の事例では触れず、「周辺国から攻撃を受けた」とはおらず明かにした。「米政府から、『サイバー対策が緩じて情報が取られる』など、何度も注意喚起があった」とも語った。

## 個人情報と「通信主権」 サイバー強化の注意点

邊りにサバイバーが職を離れた。した米国の「Hunt Form ward (船方通商)」が、  
くに觸及。連長は日本本邦派遣のため同チームの日本派遣を提案したが、日本側は拒み、「これを『日本は眞正の通商經に他國の軍隊が介在する』ことを不快と思つて  
いた」と批評する元米軍担当局者の「メント」も點滅した。  
た。サイバー分野での日米協力は不可欠だが、日本は主權國家にして他國に「領土主權」を奪われるわけには連携はずべきだ。豈なる。

主導権での対応能力を發揮する方針で、主要国との同等以上に向かうことをめざせる」との方針を明確に示す。〔能動的サイバー防衛を導入する〕との方針で、政府はその実現に向け、来年の通常国会上に閣議決定案の提出を目指していく。

日本政府関係者によると、米政府内には日本政府に対し、サイバー上の攻撃に対する金剛堅能力の強化を求める声が根強くある。とりわけ、8月18日に米ツイッター

トーン以外である日米韓の脳会議でも、サイバー防衛への対応が協議される可能性がある。日米政府の水面下の接触に触れた今回の米紙の報道について、韓国関係者は「サイバー能力の強化を促す米側の意図を反映しているかもしれない」とみる。(連絡担当者)〔シン・ヒヤ(李暉暎)〕